

景況レポート

(1月分・情報連絡員80名)

建設関連、新車販売、家電販売が依然として好調

～コストアップ分の価格転嫁と収益の確保に課題～

【概況】前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが25.0%(前月調査27.5%)、「悪化」が32.5%(同28.8%)で、業界全体のDI値は-7.5となり、前月調査と比較して6.2ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-15.6となり、前月調査と比較して6.2ポイント下回った。非製造業全体のDI値は-2.1となり、前月調査と比較して6.3ポイント下回った。

消費税増税前の駆け込み需要による民間投資や一般建築、新車販売、家電販売等が依然として好調に推移しているが、建設業では、大雪への対応や職人不足等による工期の遅れがみられ、製材業では、原木の入手が困難になっていることから、工場の稼働率の低下が見られる。

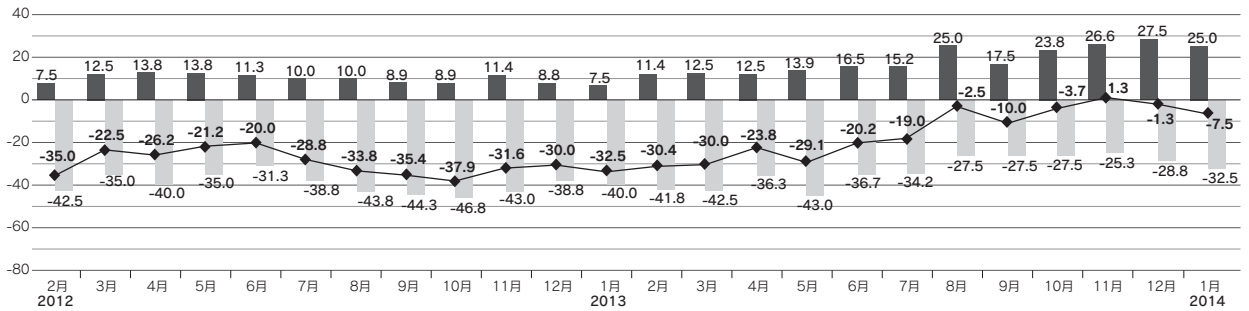
全体の景況DI値はマイナス桁台に止まっているものの、4月以降は、売上や受注の反動減も予想されることから、今後、コストアップ分の価格転嫁と、収益の確保が課題となる。(回答数：80名 回答率：100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業	☔	☁	☁	☔	☔	☔
非製造業	☁	☀	☁	☔	☁	☁

【凡例】
 ☀ 快晴 30以上
 ☁ 晴れ 10以上 30未満
 ☁ 曇り △10以上 △30未満
 ☔ 雨 △10未満 △30未満
 ☔ 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

- 麺類製造** 原料価格・燃料価格が高騰している中、販売価格は依然として下落傾向にある。
- 繊維製品** 年明けから急に忙しくなった。当初のオーダー数よりも大幅に増産指示が出たり、追加企画の引き合いが増えたりする現象が起き始めている。昨年、秋冬物の店頭実績が奮わず仕入に慎重になっていたアパレルメーカーが、消費税増税を意識して企画を早めようとしているように感じる。
- 木材・木製品**
 - ・国産合板は値上がりが続いている。在庫量が少ない上、需要が旺盛だが、配送の遅れも目立ち、市場に混乱が見られる。特に、長尺合板が品薄状態にある。
 - ・全国的には木材単価が10～20%値上がりしているが、秋田県では現在不需求期であるため10%前後の値上がり率にとどまっている。原木の入手が困難なため需要に応じられず、工場の稼働率は低下している。
- プレカット** 消費税増税の影響により、1月以降、住宅関連の見積が若干低調となっている。4月までは現在の受注をこなし、前年以上の業績が見込めるが、それ以降については懸念がある。
- 機械金属** 各社とも受注額は前月比で若干増加しており、見積件数も前年同月を上回っている。春以降も順調に仕事を確保できそうだが、収益面ではまだ好転が感じられていない。
- 自動車販売** 1月の新車販売台数は、登録自動車が2,079台(前年同月比141.4%)、軽自動車が2,289台(同134.9%)で、合計4,368台(同137.9%)であった。4月から消費税増税による駆け込み需要と新型車効果を要因とした好調な売れ行きとなった。
- 石油販売** ガソリン1ℓあたり158円50銭で前月比1円30銭の上昇、軽油1ℓあたり142円40銭で前月比20銭の上昇、配達灯油は18ℓで1,916円と前月比19円の上昇と、ガソリンは5週連続、配達灯油は7週連続の値上がり。燃料価格は、原油の高止まりと円安で、今後も横這いの見込み。
- 家電販売** 消費税増税前の駆け込み需要からか、白物家電を中心にやや売上増加となっている。
- 一般建築** 公共工事が増加して忙しくなっているところに、除排雪が重なり、本来の工事に影響が出ると思われる。
- 電気工事** 依然として電気工不足の状況にあり、賃金の上昇が見受けられる。平成26年に入ってから、公共工事及び自然エネルギー関係工事の発注が増加している。